

# 『きょうの献立は、』

作 木村 繚真

○登場人物（女性4名）

果穂 高校2年生、生徒会執行部員

菜月 高校2年生、生徒会執行部員

本条 高校1年生

小野先輩 高校3年生、元生徒会長

録音の声（A、B、C）

音楽。

幕が開く。

9月。お昼休みの生徒会室。

舞台後方のホワイトボードには「飲食禁止」の掲示。

菜月と小野先輩が話している。

菜月 もう意味わからないですよー。

小野 ほんとごめん。

菜月 いや、先輩のせいじゃないので！

小野 まさか遠藤くんがそんな悪事を働くなんて……、

菜月 ですよねー。

そこへ果穂がやってくる。

果穂 やっほー。

菜月 あっ、ねえどこにいたの？会議とつくに終わったよ？

果穂 え、なんでそんな怒ってるの。

菜月 押し付けられたんだよ。

果穂 何を？

菜月 ラジオパーソナリティー！

果穂 ええ？どういうこと？

小野 ま、とりあえず座ろう2人とも。

2人、席に座る。

小野 さっきの会議で、お昼の時間にラジオをやろうってなったらしいの。

果穂 ほう、いいじゃないですか。

小野 で、そのパーソナリティーが、菜月ちゃんと果穂ちゃん。

果穂 ほう、菜月と私。

小野 うん。  
果穂 なんて？

菜月 そこだよ。なんで会議中にただ寝てただけの私がやることになったのかって話よ。  
果穂 寝てたんかい。

菜月 果穂はサボってたでしょー？

果穂 違うよ、食堂でアイス食べてたんだよ。

菜月 サボってるじゃん！

果穂 でも真剣だったよ？

菜月 は？

果穂 「味わう」って、こう、目をつむって、心から牛に感謝して、ミルクを感じていたんだよ。

菜月 もー、

果穂 おっ、牛だけに？

菜月 突進するぞ？

小野 まあまあまあ、

果穂 要するに、寝てた菜月と、サボった私への罰ってこと？

菜月 違う。

果穂 違うの？

菜月 あいつ、ニヤニヤして言ったんだよ、「お前ら食いしん坊だからー！」って。

カミナリの音。

果穂 かつちーん！あんの職権乱用パワハラ生徒会長、お年頃の女の子になんてことを！

菜月 帰りに菓子パン、うちに帰って晩御飯。あれもこれも最近4キロ太りました！

果穂 毎日アイス食べてもいいじゃん！チョコに抹茶にバニラに苺。幸せより取り見取りなの！

菜月 食いしん坊だ、ねえ、うちら食いしん坊だよ。

果穂 否定できないかあー、くうーっ、泣けるーっ。

菜月 寝るわサボるわ食べるわ、ハハッ（遠い目）。

果穂 でもさ、

菜月 ん？

果穂 なんか面白そうじゃない？

菜月 ええー？

果穂 ラジオって割と聴くよ？気分転換に。

菜月 あー、推しの番組？

果穂 うん、週に1回癒しの時間。

小野、収納棚からノートパソコンとマイク2つを出してくる。

小野 コレ。使えると思うよ。編集ソフト入ってるし、最新式ワイヤレスマイク。  
菜月 先輩。

果穂、マイク2つを受け取る。

小野 生放送するわけじゃないし、自由に作れて楽しいかもね。

菜月はパソコンを受け取る。

小野 ぎゃふんと言わせてやりなよ。(微笑み、)じゃあね。

小野、去る。

菜月 やっぱカッコいいね、小野先輩。

果穂 会長やめてほしくなかった。

菜月 仕方ないよ、もう受験だし(座る)。

果穂 留年しないかな。

菜月 こら。

果穂 私も塾あるし、来年度はやめとこうかなあ。

菜月 でも、ちゃんと引き継いでいきたいって、思ったんでしょ？

果穂 そうだね。

菜月 じゃあ、やれるだけのことはやらなきゃ……。

果穂、背もたれに寄り掛かる菜月の疲れた表情を見て、

果穂 寝不足？

菜月 うん。

果穂 お兄さんのこと？

菜月 (頷く)。

果穂 なんかあった？

菜月 ……薬飲むの嫌がつてさ。ちょっと暴れちゃって。でも大丈夫。

果穂 ……おつかれさま。

果穂、菜月の頭を撫でる。

菜月、果穂を見上げる。

菜月 果穂は？

果穂 ん？

菜月 勉強、調子いい？

果穂 これからもっと模試受けて、レベル上げなきゃなって感じ。

菜月 おつかれさま。

果穂 ありがと。

果穂、座る。

2人、パソコンとマイクを見る。

菜月 やるか。

軽快な音楽F I。

果穂 やってみるかあー（背伸び）。

菜月 ぎゃふんと言わせてやろうぜ。

果穂 ぎゃふん！

照明、薄明かり。果穂はマイクとパソコンをセッティングし、一旦去る。

菜月はホワイトボードを裏返す。そこには『らんちやるラジオ 第 1 回』と書いてあり、こちら側にも「飲食禁止」、そして「会議中」の掲示がある。

照明戻る、音楽F O。翌々週のお昼休み。

菜月、空欄に『1』を書いて『らんちやるラジオ 第1回』にする。

菜月 よし。リクエストの曲が5分で、相談コーナーと、文化祭の紹介、で、15分。うん。

果穂がやってくる。

全校生徒から回収したアンケートを持っている。

果穂 やっほー。

菜月 おつかれー。

果穂 ご飯食べた？

菜月 食べたー。

果穂 アンケート、結構書いてくれてるよ。

菜月 ほんと?! ありがてえ。

果穂 曲はみんな書いてくれるんだけどねえー（アンケートを半分菜月に渡す）、

菜月 相談コーナーは厳しい？

果穂 まあ、あるにはあるけどさあ。

菜月 やっぱそうだよねー。

果穂 みんな聴いてる中で相談ってハードル高いよねえ、匿名とはいえ。

2人とも座り、目を通し始める。

果穂 読むね。

菜月 うん。

果穂『こんにちは。僕は浜辺美波さんと結婚したいです。できればヒモになりたいです。よろしくお願いします。』

菜月 最低だな！

果穂 どこに相談してきてんだコイツ。

菜月 却下です。

果穂 働けえ！（アンケートを破る）。

菜月 ……読むね。

果穂 うん。

菜月 『最近、教頭先生が口をきいてくれません。どうしたらいいでしょうか。校長より』

果穂 校長先生ー！

菜月 無視されてるのかな？なんでだろう。

果穂 どうしたらいいかってそんなの……、

2人 校長、ガンバレ☆（正面を向いてガッツポーズ）

果穂 ……読むね。

菜月 うん。

果穂 『最近、校長が鬱陶しいです。』

菜月 教頭先生ー！

果穂 『やれ孫は可愛いだの、家族は多いほうがいいだの、ひとの事情も考えずに勝手なことばかり。無神経で時代遅れな老害は、さっさと引退しないと子どもたちにも悪影響です。今度校長に抗議しようと思うのですが、勇気が出ません。ぜひ、私に励ましをください。』

2人 ……。

果穂 うちらのこと、マツコ・デラックスだと思ってる？

菜月 送るところ違うー。

果穂 難しいな。

菜月 私、教頭先生好きだよ。

果穂 あんまり喋ったことないなあ。

菜月 生物の授業で会っただけだよ、結構きわどい話するから面白いんだよ。

果穂 どんな話？

菜月 言えない。

果穂 そんな？

菜月 ちなみに犬と猫飼ってて、我が子のように可愛がってるんだって。写真も見せてくれた。

果穂 先生って何歳？

菜月 えー、40後半とか？

果穂 独身？

菜月 だと思っ。聞いてる感じ。

果穂 そっかあ、んー。

菜月 私たちに言えることって、なんだろうね。

果穂（立ち） 私たちのために、打倒、校長！

菜月（立ち） 勇気は一瞬！後悔は一生！

2人 教頭、ガンバレ♡（ハートを作る）

菜月（座る） ……読むね。

果穂 うん。

菜月 『最近ガチャ運悪すぎワロタ。50連でSSRが1枚も出ない爆死。おれはもう、二度と課金しねェから!』

果穂 なんの宣言?旧ツイッターにでも書き込んでろ。

菜月 まあまあ落ち着いて。

果穂 だってさあ、

菜月 そもそもさ、うちら誰なの?って話じゃない?

果穂 え?

菜月 相談したいなって思われるほど、知られてないよね。

果穂 いまさらー。

菜月 ラジオの定番コーナーだと思ったのにね。

果穂 じゃあうちらで相談し合う?

菜月 うちらで?

果穂 自己紹介も兼ねて。

菜月 あー。

果穂 何か相談したいこと、ある?

菜月 ……痩せる自転車の漕ぎ方。

果穂 どういうことー。

菜月 自転車で通ってるからさ、行き帰り、ダイエットになるじゃん?

果穂 ギアをさ、重いのにするとか。

菜月 してる。

果穂 してるんだ。

菜月 かごに漬物石いれようかなあと思ったんだけど、

果穂 あるか?漬物石。

菜月 なかった。

果穂 じゃあ普通に遠回りするとか?

菜月 いやあ、4時までには帰らないとだし。

果穂 いつも間に合ってる?

菜月 うん、コンビニ寄るくらいの時間はある。

果穂 大変だよな。

菜月 まあもう慣れたよ。

果穂 どんな話するの?お兄ちゃんと。

菜月 ……トンネルとか、踏切とか。

果穂 トンネル?

菜月 まあ、親が帰ってくるまで見てるだけだから、別に。

果穂 ……、

菜月 果穂は?

果穂 え?

菜月 相談。

果穂 あー。前髪がうねる。

菜月 広げる自信ないなあ、その話。

果穂 一応気つかってるんだよ？

菜月 その甲斐あっていつつも可愛いよ？

果穂 でへへ。

菜月 冗談はさておき、

果穂 オイ。

菜月 ちょっと気になる相談があるんだけど。

果穂 え、イタズラじゃなくて？

菜月 たぶん。

照明変化。

### 【第1回・収録兼放送】

菜月 次は相談コーナーのお時間です。今回は全校生徒の皆さんに書いて頂いたアンケートの中から、1つ、ご紹介したいと思います。

本条、入る。

本条 『うちは母子家庭です。忙しい中、母は朝ごはんとお弁当を2人分作ってくれます。

このあいだ、クラスメイトにお弁当を笑われました。自分も、合わせて笑っていた。内心、腹が立っていたのに。悔しかった。』

本条、去る。

菜月 メッセージをお寄せくださり、ありがとうございます。

果穂 ありがとうございます。

菜月 皆さん、それぞれの家庭の事情があると思います。自分ではどうにもできない現実の前に、悩むこともあると思います。私もよく、この方と似た感情を味わっています。本音を

言いたい、でも、言ってしまうと日常が壊れてしまうかもしれない。通じ合えない恐怖、どうにもならないという諦め。気軽に話し合えればどれほど楽だろうって、想像だけで終わる。言葉を飲み込んで、小さな我慢が積み重なって……しんどくなる。

果穂 何気ない自分の行いが、思いがけず、人を傷つけていることって、あるんだよね。誰しも、きつと気づいていないだけで、誰かを追い込んでいるのかもしれない。相手をよく見て、寄り添える言動を心がけていきたいって、私も思っています。

菜月 優しくありたいね。

果穂 うん。

菜月 直接的に、解決できるような言葉をお伝えできれば良かったのですが、簡単ではないことだと感じています。

果穂 皆様から頂いたメッセージに対して、私たちもできる限り、一緒に考えていきたいと思っています。生徒会室前にボックスを設置しましたので、どなた様でも、是非、お声をお聞かせください。

2人 よろしく願います。

小さくBGMが流れ始める。

果穂 さあ！ということでしょう、

菜月 あはっ、急に盛り上げたね。

果穂 なんか硬くなっちゃったから。

菜月 まあ初回放送ということだね、収録だけど緊張するよね。

果穂 客観的に見るとダメだね、もう恥ずかしい。

菜月 手汗やばい。

果穂 じゃもう次のコーナーいっちゃいましょう！

菜月 いっちゃいましょう。

果穂 文化祭特集ー！

菜月 イエーイ！（拍手）

果穂 なんと文化祭まで10日を切りました。

菜月 切りましたねー。

果穂 生徒会の動きも活発になってきております。

菜月 おります！

果穂 そこで！各クラスの出し物を、カウントダウン形式で発表していきたいと思います。

菜月 今回は1年生の紹介です。

果穂 はい。

菜月 まず1年1組は、じゃじゃん、ソーラン節！

果穂 おー。

菜月 いいねー。

果穂 小学校のときやった。

菜月 やったんだ。

果穂 え、ないの？

菜月 なかったと思うー。

果穂 今度一緒にやろうよ。

菜月 できないよ。

果穂 こう、見たことあるでしょ？（やって見せる）

菜月 めっちゃキレイじゃん！ラジオじゃ伝わんないよ。

果穂 1組の皆さん、楽しみにしています。

菜月 練習がんばってください。

果穂 はい、続いてー？

菜月 2組は、校内の飾りつけを担当してくれるみたいです。

果穂 大事だねー、雰囲気出るもんね。



菜月 私たちも去年やったよね。

果穂 やったー。フォトスポットとか。

菜月 あと階段の、このー、段の、側面に、絵をね、

果穂 切って貼ってね。

菜月 そうそう、下から見たら絵になってるっていう。

果穂 意外と時間かったよね。

菜月 ギリギリだったー。

果穂 今年もね、趣向をこらした飾り付けが見られると思いますので、ぜひ、ご注目ください！

菜月 さあーい。

果穂 続きまして！

菜月 3組！

果穂 よっ！

菜月 お化け屋敷！

果穂 出ましたー！

2人、拍手。

果穂 お化け屋敷大っ好き。

菜月 なかなかないよね、行く機会。

果穂 ない。

菜月 去年はさー……

溶暗。菜月、去る。

溶明。BGM消える。次の日。お昼休み。

菜月、入ってくる。

菜月 おつかれー。

果穂 おつかれー、評判どう？

菜月 いろんな人にイジられたー。

果穂 なんて？

菜月 「めっちゃ喋ってるじゃーん」ってニヤニヤしてさー。

果穂 褒められてるんだよ。

菜月 教室でごはん食べながら自分のラジオ聴くって拷問だよ？

果穂 うちのクラス結構静かったよ。

菜月 それはそれでキツくない？

果穂 普通に良かったってさ。

菜月 褒められてるのか？それー。

果穂 先生も良かったって言ってたし、上々でしょ。

菜月 でもどうする？紹介できる相談もうないよ。

果穂 きのう放送して、今日火曜日、次金曜放送だから、明日あさってには収録しないと。

菜月 もっと編集したいよね。

果穂 効果音入れたりね、

菜月 あったらいいよねー。

果穂 え、ってか月曜のぶんも録らなきゃいけないじゃん。

菜月 ……月金放送って無理じゃない？

果穂 週1回にする？

菜月 のほうがいいよね。

果穂 見切り発車すぎたねー。

2人苦笑。そこへ本条がやってくる。

本条 あのー、

2人 ？

本条 あ、すみません、あの、お昼のラジオの、お二人ですか？

果穂 はい。

本条 あの、昨日の放送で、お弁当の話、されてたじゃないですか。

果穂 はい。

本条 あれ、私が書いたもので、

2人 えっ、

本条 あの、

菜月 え、ごめんなさい、苦情ですか？ほんとに読まれると思わなかったとか、

本条 あ、

果穂 何かあったんですか？放送のあと。

本条 そ、そうなんです。実は、

2人 すみませんでした！！（頭を下げる2人）

本条 あっ、違うんです、頭を上げてください。あのあと、笑った子たちが謝ってくれたんです。

2人 えっ。

本条 さすがに気づいたらしくって。勢いで書いてしまったし、まさか採用されるとは……。

果穂 やっぱ読んでいいかの確認必要な？

菜月 本名書いてもらうってこと？

果穂 いやあ、

菜月 んー。

本条 それで、お礼が言いたくて。お二人のおかげで、ちゃんと話ができました。読んでくださ

ったおかげです。ありがとうございました（礼）。

菜月 いえいえそんな、こちらこそ。ね。

果穂 うん、読めそうなのあれしかなかったっていうか、

本条 え。

菜月 ちょっと（果穂につっこむ）。

果穂 ほんと、こちらとしても助かりました、ありがとうございました（礼）。

菜月 ありがとうございます（礼）。

本条 あと、文化祭の紹介もしてくださって、みんな気合入りました。

菜月 ああ、1年生か。

本条 はい。お化け屋敷です。

果穂 あー！（拍手）絶対行く！

菜月 楽しみにしています。

本条 がんばります。私も、お二人のラジオ、楽しんでいます。

2人 ありがとうございます。

本条 それでは、

本条、会釈して去ろうとしたところ、

果穂 あのー、

本条 はい？

果穂 つかぬことをお聞きますが、パソコンって、得意ですか？

音楽C I。照明、薄明かり。

本条と菜月は椅子に座る。果穂はホワイトボードの数字を『2』に書きかえる。

照明戻る。音楽F O。

次の日。お昼休み。

本条 はい（挙手）。

果穂 本条さん。

本条 『らんちやるラジオ』っていう名前の由来はなんですか？

果穂 お昼だから「ランチ」で、楽しいラジオがいいよねってことで、「ふざける」っていう意味の「茶る」をくっつけて、「らんちやる」になったの。

菜月 響きが可愛いし、ひらがなのもポイント。

本条 なるほど。ロケットランチャーかと思いました。

菜月 うん、物騒だね。

本条 でも、あんまりふざけてないですよね。

2人 え？

本条 相談コーナーとか、真面目でしたよね。

菜月 まあ、そうなっちゃったよね。

果穂 うん、なっちゃったんだよね。

本条 現状、「相談」の投稿が無い、楽しいラジオにしたい、のであれば、毎回テーマを変えたらいいんじゃないでしょうか。

果穂 テーマを変える？

本条 例えば、「感謝」とか。感謝を伝えたい人を募集して、投稿してもらう。

果穂 ポジティブなことが多いから、トラブルになりにくい。

菜月 投稿へのハードルは下がりそう。

果穂 感謝を伝えるラジオ。

菜月 いいじゃん。なんで思いつかなかったんだろう。

本条 実際本人を招いて喋ってもらってもいいと思いますし、

菜月 あー。

本条 先生のプライベートを聞いちゃう！とか、突然歌い出すーとか、面白いかもです。

果穂 本条さんっ、あなた編集のみならず企画までできるなんて……！

本条 えっ、

菜月 うちら全然考えずに始めたから。

果穂 タイトルにこだわり過ぎたね。

本条 ちなみにキャッチコピーってありますか？

果穂 え、あると思う？

菜月 ないない。

本条 テーマは毎回変わるけど、このラジオ自体のコンセプトは定めたほうがいいと思うんです。  
果穂 ほう。

菜月 確かに。

2人 うーん。

果穂 みんなのお昼が、もっと楽しくなるように、したい。

菜月 うちの声が邪魔って人もいるだろうから、放送時間は15分にしたの。

本条 あ、そうなんですか。

果穂 難しいな。

本条 そもそもなんで先輩たちはラジオ始めたんですか？

2人 ……。

果穂 食いしん坊だから？

菜月 やめてよ、ほんとのこと言うの。

果穂 正直、私はひとと話すのヘタだから、何か変わるきっかけになるかもなって、思ったところがある。

菜月 そうだったんだ。

果穂 まあ、ほぼ成り行きだけだね。

本条 うちのクラスでは、結構みんなちゃんと先輩たちのお話を聴いてました。箸をとめてる人もいて、なんか、楽しいだけの人たちじゃないんだって、感じてたのかなって、私は思います。

菜月 ……『あなたのお昼にもう一品（ひとしな）。らんちやるラジオです。』

3人、目を合わせる。

果穂 え、いいじゃん。今のいいじゃん！

菜月 ほんと？

本条 私もいいと思います。

菜月 『あなたのお昼に』

果穂 『もう一品』

2人 『らんちやるラジオです。』

果穂 けってーい！

3人、拍手。

果穂 やった。

菜月 なんか方向性が見えたっていうか、形になった気がする。

果穂 本条さんのおかげ。

本条 よかったです。

菜月 じゃあテーマ「感謝」で、アンケート作る？

果穂 それよりさ、インタビューして、声録音したの流せたら良くない？

菜月 確かに。その場合って編集大変？

本条 いや、余裕です。

菜月 じゃあうちらで、各々周りの人に、聞いてみよう。

果穂 おっけ。

チャイム。

菜月 文化祭のコーナーもあるし、うちらは明日もお昼集合ね。

果穂 うん。

本条 放課後って集まらないんですか？

菜月 うん、果穂は塾だし、私も帰んなきゃいけなくって。

果穂 放課後時間合うのはたまーに。

菜月 ごめんね。

本条 いえ全然。

話しながら歩く3人。

果穂 本条さん部活は？

本条 イラスト部で、月曜日だけです。

果穂 おおー、期待の新人だ。

菜月 生徒会へようこそ。

果穂 ようこそー。

本条 よろしくお願いします。

微笑み合う3人、去る。照明F.O。

【第2回・収録兼放送】

照明・音楽（ビート）C.I。

果穂と菜月がハンドマイクを持って入ってくる。ラップ披露。

♪ 【歌詞】（プロジェクトで歌詞を映しても良い）

果穂（2小節イントロ）

YOYOYOー始まったぜえ、らんちやるレディオー。

前回の放送を聴いてくれたみんな、マジありがとナー。

菜月 え？なんで今日はラッパーぽいって？ んなもん勝手にお前ら決めナーY e a h ー。

菜月 今日の放送かなり迷走、するかもだけど聴けよマイソウル。

理想の番組作り奔走。毎日会議これは戦争？

果穂 そんな中加わる超新星。企画に編集冴える万能性。

3年？2年？まさか1年生？！才能にひれ伏せみな観念せい、カモン！

本条が飛び込んできて、ボーパ披露（8小節）。

菜月 衝動的命の営み、献身的犠牲の上に成り立つ。

十字架背負う身 Shoot me right now.あの狂瀾怒濤にや付き合いきれねえ！

果穂 人生諦める時期尚早ー。

菜月 論争やまぬ世間にマジ吐きそう！

果穂 想像力総動員で！

3人 みんなに寄り添うご馳走レディオ！Y e a h ー！！！！

拍手と歓声（効果音）。

果穂 ありがとー！

照明変化。ハンドマイクは本条が集める。

2人、何事もなかったかのように着席。本条は隅でスンツと立つ。

菜月 さて、本日も始まりました。あなたのお昼にもう一品、『らんちやるラジオ』です。

果穂 この番組は、生徒会の提供で、お送りします。

本条、コーナーが切り替わるジングルとしてのボーパ。その後スンツと去る。

果穂 では第2回放送、早速まいりましょう。今日のテーマは、

ドラムロール（効果音）。

果穂 「感謝」。

歓声（効果音）

菜月 今回は身近な方々に、インタビューを行ってまいりました。  
果穂 皆様の声を、どうぞお聴きください。

照明、薄明かりになる。音声が流れる。

A 「シオちゃん！ハルカです！あはは！この間は教科書貸してくれてありがとう！またかき氷と、あと駅前にできたカフェ、行こうねー。あとえーっと、大好きだよー、あははは！」

B 「皆様こんにちは。生徒会長の遠藤です。僕の感謝したい人は、生徒会長選挙のとき、親身になってサポートしてくださった、宮田先生です。先生の洞察力、知識量、鍛え抜かれた精神と肉体！僕の、憧れです。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します！！！」

C 「えー、これは、もう話していいのかな？えー、私はこの高校の、校長です。えー、そうですね、日々、えー、忙しく、働いてくださっている、えー、教頭先生にですね、今日は、えー、感謝を述べようということで、えー、（咳払い）すまんね。えー、どこまで話したかな？まあ、とにかくね、感謝というのは、大事なことから、えー、生徒の皆さんもね、感謝の心を、どうか忘れずに。えー、以上。」

照明戻る。果穂がふるふる震えている。

菜月 はい。ということで、今回はお三方の声を、聴いて頂きました。いかがでしたか？

果穂 校長感謝言ってなあーい！！

菜月 ちよっと、

果穂 そんなんだから無視されるんだよ教頭先生に！

菜月 ねえそれカットだよ、本条さんの仕事増やさないで。

果穂 いや全校生徒がツッコんでるよ今！

菜月 はい、編集点（手を叩く）。はい、皆さん素敵なご関係でしたねー。ねー？！

果穂 ステキデシター。

菜月 感謝を言葉にするのは、照れくさいところがありますよね。

果穂 ちなみに、私が感謝したい人は、菜月ちゃんです♡

菜月 あら、どうしてですか？

果穂 1年生のとき、一緒に生徒会入らない？って私が誘ったら、「いいよ」って言ってくれたからですっ。いろんな経験と、思い出ができたので、感謝してます。いつもありがとう。

菜月 ふーん。

果穂 「ふーん」って。もう、ツンデレなんだからあー。

菜月 デレたことないし。

果穂 菜月ちゃんの感謝したい人は誰ですかっ。

菜月 はい、それでは曲にまいりましょうー。

果穂 ねえー。

菜月 リクエストは藤井風で、『何なんw』（自由に変更してください）。

曲が流れ始める。2人、顔を見合わせて笑う。照明、通常に戻る。

2人が原稿を持って前中央に寄り合い、ペンで直しを入れたりしながら楽しそうに話し合う（声は出さない）。しばらくしたあと、  
原稿をにこやかに見ている果穂のもとから、菜月がゆつくりと、後ずさりで離れてゆく。名残惜しく、切ない表情。曲は次第に小さくなっていく。照明も果穂に集まってい。あるところで菜月は背を向けて去る。曲は完全に消える。  
果穂が視線を移すと、そこにもう菜月はいない。  
去っていった方向を見つめる果穂、正面を向く。

果穂 この収録が終わり、放送された、翌週月曜日。菜月は学校を休んだ。今日も……、

照明、薄明かり。

舞台は火曜日、昼休み。果穂がホワイトボードの数字を『3』に書きかえる。

菜月を待っているが、やってこない。菜月に電話をかけてみるが出ない。

生徒会室をぶらぶら歩く。ぼーっとする。スマホを確認する。連絡はない。席に座る。

少し迷ったが、菜月から何か聞いていないか小野先輩にメッセージを送る。

目を閉じる。

やがてチャイムが鳴る。果穂、慌てて飛び起きて去る。

照明戻る。その日の放課後。

ゆつくりと菜月が入ってくる。ホワイトボードの『第3回』を見つめている。

そこへ果穂がやってくる。

果穂 菜月。

菜月、振り返らない。

果穂 昨日どうしたの？今日も、授業出てないでしょ？

菜月 ……。

果穂 返信もなかったし。菜月？

果穂、肩に手を置いて軽くこちらを向かせる。

振り返り向いた菜月の額には創傷被覆材（キズパワーパッドなど）が貼られている。

果穂 どしたの、おでこ。

菜月 ……切れた。

果穂 切れた？何で？なんかあったの？

菜月 ……。

果穂、椅子を出す。

菜月 ガラス。



果穂 ガラス？痛そう……。

果穂、菜月の背に手を当て、

果穂 座ろ？

菜月、立ったまま動かない。

果穂 大丈夫？

菜月 しんどいなあ。

果穂 え？

菜月 ……どこから話せば、許してくれる？

果穂 許すって、何を？

菜月 違う？

果穂 ……話したくなかったら、話さなくても、

菜月 やっぱり、そうだよな。私が、わがままなだけ。

果穂 ごめん、私、よくわかってない、けど、ただ、菜月のことが心配で……、

菜月 刺した。

果穂 え？

菜月 ボールペン。兄の背中に。

果穂 ……。

菜月 意味不明だよな。

果穂 お兄さん、大丈夫なの？

菜月 大丈夫なんじゃない？

果穂 なんて、そんなことしたの？

菜月、果穂を見つめる。悲しみや苛立ち、諦めなどが入りまざった表情。

果穂 菜月……？

菜月 無理だ。

菜月、去る。

果穂、動けない。茫然として、菜月の背中を見送る。

小野先輩がやってきて、菜月とすれ違う。

小野 えっ？え、何かあった？

果穂 ……わかりません。

立ち尽くす果穂。

小野 果穂ちゃん、今日って塾の日？  
果穂 ……。

小野 果穂ちゃん？  
果穂 え？

小野 今、時間ある？ 話、聴くよ？  
果穂 ……（頷く）。

2人、座る。

小野 心配で来ちゃった。  
果穂 すみません。

小野 ううん。連絡くれてよかった。

果穂 菜月、日曜日から返信なくて、さっき、急に来て、よく分からないこと言うし、なんか、変で……。

小野 喧嘩した？

果穂 ……私、何かに夢中になると、周りのこと見えなくなつて、自分が納得するまでやめられなくて、しつこいっていうか、こだわりの強いみたいで。それが、影響したのかも……。  
小野 一緒にさ、生徒会誌つくったじゃない？ クラスの編集委員の子たちと。  
果穂 はい。

小野 あの時さ、果穂ちゃんがいてすんごく助かったんだ。細かい記録をまとめたり、原稿の締め切りを調整してくれたり。なかなか気が回らないところも、果穂ちゃんがサポートしてくれたから、スムーズに編集できたんだよ。

果穂 ……。

小野 悪いことばかりじゃないよ。

果穂 でも、ほんとうに大事にしたいものを、大事にできないなら、私は、私を許せません。

問。

小野 実はね、私、遠藤くんに聞いてみたの。なんで菜月ちゃんと果穂ちゃんを、ラジオパーソナリティーに選んだのかって。

果穂 それは、食いしん坊だから、

小野 気づいてたんだって。

果穂 何をですか？

小野 最初ははぐらかされたんだけどね。果穂ちゃんへの気持ちには嘘つけなかったみたい。  
果穂 どういうことですか？

小野 ふふっ。遠藤くんは、果穂ちゃんのこと好きなんだよ。

果穂 いやいやいや、そんなこと、

小野 果穂ちゃんは、遠藤くんのことなんとも思っていないでしょ？

果穂 なんとも思っていないですね。

小野 でも、菜月ちゃんには思ってるよね。

果穂  
……。

小野 多少強引だけど、彼なりに、果穂ちゃんのことを思って行動したんだよ。

果穂 ちよつ、ちよつと待ってください。え、なんで、え、そんな、私そんな……、

小野 よーく見てたら分かるよ。果穂ちゃんて真っすぐだから。

果穂、手で顔を覆う。

果穂 最悪……。

小野 まあ、恋するとき、なんかおかしくなっちゃうよね。普段の自分でいられなくなる。それも後になってからわかる。困ったもんだよね。

果穂 いつからですか？

小野 気づいたの？

果穂 はい。

小野 1年生の後期から2人一緒に入ってきたよね？

果穂 はい。

小野 だから去年の、クリスマスごろ。

果穂 具体的ですね。

小野 なんかクリスマスどう過ごすのかって、話してたんだよ2人が。

果穂 覚えてます。

小野 菜月ちゃんは、家族と過ごさなきゃいけないって言ったんだよ確か。それを聞いた果穂ちゃんの顔が、すごい絶妙だったの。

果穂 絶妙な顔ってなんですか。

小野 ほら、好きな人とか恋人と過ごすんじゃないっていう安堵と、一緒に過ごせない寂しさと、私も菜月の家族と過ごしたいーなんて言うのは図々しいし家族団欒の邪魔だろうし空気読めない奴ーって思われたくないしどう反応するのが正解なのか分からんマジ無理もう帰って爆食いするしかねえ！って顔。

果穂 めっちゃ見てるじゃないですか！

小野 へっへっへ。

果穂 もしかして、菜月にも、バレてましたか？

小野 どうだろう。隙がないからね、菜月ちゃんは。分からないな。

果穂 ……1年生のときは、クラスが同じで、一緒にお弁当食べてました。普段は真面目でクールで、でもふざけるときは思いつきりふざけて、気遣いもできて優しく、面倒見がいい。どんだん惹かれていったんですよ……。

小野 素敵だね。

果穂 2年生でクラスが別れて、ちゃんと会えるのは生徒会くらいでした。ラジオを任せられたときは、正直ラッキーって思いました。最後に思い出作れるかなって。

小野 戻ってきてくれたらいいね。

果穂 ときどき、菜月は別の世界にいるんです。ひとりで。

照明、果穂のみを照らす。小野、去る。

果穂 次の日も、その次の文化祭の日も、菜月は学校を休みました。ラジオの準備は、進んでいません。

照明戻る。果穂、座る。

本条、入る。金曜日。

本条 おつかれさまです。

果穂 おつかれさま。

本条 先輩、お昼食べるの速いですよね。ゆっくり食べなきゃ太っちゃいますよ。

果穂 食欲無くて。

本条 ……食べなきゃ元気じゃないよ。

果穂 ……。

本条 お弁当ですか？

果穂 うん。

本条 私、代わりに食べてもいいですか？

果穂 お腹すいてる？

本条 すいてないですけど、食べずに捨てちゃうのは、ちょっと。

果穂 ……。

本条 私、母と話し合って、一緒にお弁当作ることになりました。もともと夕飯は一緒に作ってたんですけど、朝はゆっくり寝ててって言われてたから、それに甘えてました。

果穂 ……ごめん。

本条 先輩たちが、あのときの気持ちをすくい上げてくれたから、私、気づけたんです。分かってたつもりだけど、毎日毎食ごはんを作るのってすごく大変で。でもだからこそ、相手のことを大事に思っている自分に、気づけたんです。

本条、床に両膝をついて果穂の手を取り、

本条 続けましょう！私、2人のラジオ大好きです。2人のこと推してるんです、推しカプなんです！

果穂 お、推しカプ？

本条 始まったばかりなのに終わるの勿体ないです。力にならせてください。

果穂 ……また、私の悪い癖だ。

果穂、自分の頬を両手でパチンと叩く。音楽F I。  
立ち上がり、

果穂 やろう。

本条 先輩、

果穂 菜月にも届くように。

本条 はい！

果穂 まずはお弁当を食べまあす！！

本条 はああいつ！！

果穂、駆け去る（教室にお弁当を食べに行く）。

本条は「飲食禁止」の掲示を外し、ホワイトボードの裏面に隠す。

そのあと『第3回』の『3』の字を上から太くする。にこにこ笑顔な本条。

照明、本条のみを照らす。音楽は本条の左記の台詞が終わるころには完全にF.Oしている。

本条

果穂先輩は、菜月先輩が戻って来たいと思えるような、楽しいラジオを作ろうとしています。あなたに寄り添うラジオ。第3回『らんちやるラジオ』は、生放送です。

本条去る。

### 【第3回・生放送】

音楽小さくC.I、生放送中も微かに流しておく。照明戻る。

果穂、ハンドマイクを持って入る。

舞台は3年生の教室。

果穂

さあ始まりました。あなたのお昼にもう一品、らんちやるラジオです。今日はなんと特別回、生放送です！というシステムで放送できているのか分かりませんが、教頭先生がうまくやってくれたみたいです、ありがとうございます！ということで早速企画にまいります！『突撃、隣のクラスのお昼ごはん』――！

小野先輩、サラダの入った容器とサンドイッチを持って着席する。

果穂

いま私は3年2組の前に来ています！怖いです！先輩たちの目がつっても怖いです！でも勇気を出して行ってきまーす！おつかれさまでーす！いやあ、なんだかいい匂いがしますねえ。お話を聞いてみましょう。こんにちは――！

小野

こんにちは。

果穂

今日のお昼ご飯を教えてください。

小野

サンドイッチと、家で詰めたサラダです。

果穂

おいしそうですねー！

小野

このサンドイッチは購買で買いました。

果穂

おーっ！何が入ってるんですか？

小野

これはメンチカツです。見てくださいこの分厚さ。

果穂

ヨダレが止まりませんねー、じゅるじゅる。

小野

このボリュームで、なんとお値段200円！

果穂

採算が取れませーん！

小野

購買ではほかにも菓子パンやカップラーメン、地元でとれた季節の果物、日用品なんかも売られています。皆さん是非ご利用ください。

果穂 ご利用ください！

小野 ちなみにサラダは、レタスとブロッコリー、トマトとお豆です♡

果穂 ぎゃーっ、先輩かわいいー！

小野 うるさい後輩ですが、皆さんどうぞよろしく願います。

果穂 小野先輩、ありがとうございました。

果穂、離れ、歩く。小野、去る。

果穂 あー緊張したー。見てください足、震えています。あ、見えませんね、アハハ。じゃ次、次行きましょう。

舞台は1年生の教室。本条、お弁当を持って入り、着席。

果穂 さあ次にやってきた教室はー、じゃじゃーん！1年3組ー！後輩の教室です！さっきより気が楽ですねえエへへ。ではまいりましょう。おつかれさまでーす！あらみんなお若い。うーうーいいですねー。あ、ちょうど目が合った彼女に、お話うかがってみましょう。こんにちはー。

本条 こんにちは。

果穂 美味しそうなお弁当ですねー。

本条 お母さんと一緒に作りました。

果穂 あら、なんて素敵。

本条 作り置きと、冷凍食品をうまく使うのがポイントですね。あと大事なのは、細菌の繁殖を防ぐために、水気をよく取ること、じゅうぶんに冷ましてから詰めること、ですね。

果穂 なるほど。ではきょうの献立を教えてください。

本条 はい。きんぴらごぼう、卵焼き、ピーマンの肉詰め、インゲンの胡麻和え、プチトマト、です。

果穂 たまりませんねー、じゅるじゅる。

本条 母の卵焼きは甘めです。私も習って、いま特訓中なんです。

果穂 それはすごい。私も料理、始めてみようかな。

本条 ぜひぜひー。

果穂 あの子の胃袋、掴みたいと思います！

本条 先輩、今の発言、大丈夫ですか？

果穂 あ。こ、ここカットね。

本条 生放送ですよっ、

果穂 で、ではここでお知らせがありまーす！なんとこの番組、ポッドキャストでも配信されることになりましたー。

本条（拍手）いえーい！さらに、メールでのお便り募集も開始しましたー。

果穂 よっ、さすがー！

本条 今おうちにいる人も、外にいるよーって人も、いつでもこの番組を楽しんでいただけまーす！

果穂 この番組が、皆さんのごはんのお供になれますように。あつたら嬉しい一品のように、小さな幸せを、お届けしていきたいと思います。本条さん、ありがとうございました。  
本条 こちらこそ、ありがとうございました。

果穂、離れる。本条、去る。音楽消える。

果穂 お二方にお話をうかがいました。私も今から、お昼ごはんを食いたいと思います。

……うちでは父が、お弁当づくり担当です。両親は家事を分担して、日々の生活を支えてくれています。私は一人っ子で、やりたいことを自由にやらせてもらって、甘えて生きてきました。学生は勉強が本分だからと、今まで家のことには意識が向いていませんでした。家のことで悩んでいる友だちに対して、私は共感できないくせに知りたがって、追い詰めるようなことを軽々しく言ってしまいました。

舞台は生徒会室。果穂、お弁当を準備。マイクは机の中に入れる。  
席につき、蓋を開ける。

果穂 きこの炊き込みごはん、卵焼き、かぼちゃサラダ、ミートボール、大学いも。

後悔のにじむ微笑みを浮かべる。  
手を合わせる。

果穂 いただきます。

箸を出し、卵焼きを取り、ゆつくりと頬張る（舞台の都合上可能な場合）。  
溶暗。

舞台前方に菜月が照らし出される。部屋着姿。地べたに座り、目の前の床には救急車のミニカーとスマホがある。手にはボールペンが握られている。カチカチカチ……、ノックを繰り返している。次第にノックが少なくなり、やめる。

スマホを手に取り、果穂に電話をかける。

果穂、照らし出される（舞台前方、菜月とは反対側）。電話に出る。

果穂 菜月？

菜月 ……ラジオ、聴いた。

果穂 ありがとう……！

菜月 ……、

果穂 ……、

菜月 私、慣れてないんだ。自分のこと話すのも、ひとに頼るのも。

間。

果穂 好きだよ。私、菜月が好き。……うまく言えなくてごめん。

菜月、俯く。拳を固く握る。  
やがて、顔を上げる。

菜月 ……あの日、夜、家のそばを救急車が通った。サイレンを鳴らしながら。お兄ちゃんは……兄は、玄関から出ていこうとした。サイレンの音を、真似しながら。「ピーポーピーポー」。靴も履かずに出ていこうとした。兄は180近くあって、体が大きい。腕とか服とか掴んでも、止められない。お父さんが走ってきて、リビングに引っ張っていった。兄はそのあとも大きな声で「ピーポーピーポー!」「ピーポーピーポー!」走り回ったりジャンプしたり、物を投げたり暴言吐いたり、夜勤でいないお母さんに会いたって壁をドンドン叩いたりしてうるさくって……!自分の思い通りにならないと暴れる、叱られると拗ねて、「どうせ僕いなくなればいいんでしょ」「警察に言うぞ」とか、訳わかんないことばっか言って……小さいときから変わらない、ずっとそう。私、もう限界で、イヤホンしてても声が聴こえる気がして。

ボールペンをミニカーに打ち下ろす。ガンッ。

菜月 気づいたら、ミニカー動かす兄の背中に、ボールペン突き刺してた。悲鳴上げて、兄は私を突き飛ばした。ちょうど、食器棚に突っ込んで、ガラスが割れた。

菜月、見上げる。

菜月 椅子を持ち上げる兄が見えて、ああ、死ぬなら死ぬでいいかなって……。お風呂上がりのお父さんが来て、取っ組み合いになって、馬乗りになったお父さんは、兄の首を絞めた。目の前で、大きな男たちが、顔を真っ赤にしながらか殺し合ってた。私は警察に電話した。足が震えて、目に血が入って動けなくなった。息をするのでいっぱいだった。警察が来て、兄は精神科に入院した。

果穂 ……大変だったんだね。

菜月 なんてかな?障害のある子のきょうだいってだけで、なんでこんなに罪悪感まみれでいきやいけないのかな。いつも誰かに責められてる気がする。お母さんもお父さんも疲れてて、私がいてくれて助かるって言う。でも私は自分の存在すら疑ってる。私はなんのためにいるんだろう?両親が死んだら私に面倒みさせるため?私が男だったら自由にできてたのかな?女だから求められるのかな?違うよね?なんで、私を作ったんだろう。私にも障害があったら?私の子どもに障害があったら?どうなるの……?みんなはさ、他人事だからって簡単に批判したり美化したり勝手だね、現実残酷なのに!……でもどうせ言葉で説明しただけじゃ伝わらない。だから話す意味がないし、誤解されるくらいなら余計なことは言いたくない。だって、兄のことが嫌いなわけじゃない。ただ、疲れた……放課後自由に遊んだり、恋人と将来を話したりしたかった。でもそれは兄も同じはず。誰も悪くない。そうやって一生、永遠、同じことの繰り返し……もう、どうでもいい。何もかも。



間。

果穂 逃げよう。

音楽F I。

果穂

一緒に逃げよう？朝起きてご飯たべて、働いてお昼ご飯たべて働いて、帰って夜ご飯たべてゆっくりお風呂に入って眠って、休みはクレープ食べに行こう？アイスも、パンケーキも。パフェでもいいし、かき氷、ドーナツ、マカロンタピオカシュークリーム、なんでも。なんでもいいから……、菜月と、また一緒に、ごはんが食べたい。私、おいしいもの作って帰りを待ってるから。だから、

電話が切れる。

菜月、いなくなる。

果穂

菜月？……菜月……！

果穂、崩れ落ちる。泣く。

間。

涙をぬぐう。果穂、立ち上がる。前を向く。

照明、薄明かり。舞台は生徒会室。

果穂、「飲食禁止」の掲示をホワイトボードの表面に戻す。

そのあと『第3回』の数字を『6』に書きかえる。音楽F O。

着席し、机の中から原稿を出す。

深呼吸。

### 【第6回・収録】

果穂

皆さんこんにちは。始まりました、あなたのお昼にもう一品、らんちやるラジオですかがお過ごしですか？中間テストの答案が、ぞくぞくと返ってきているところでしょいか。

今週は防災避難訓練や朝読書があります。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋は、

おいしい食べ物がたくさんありますね。例えば、私が好きなのはー、

菜月

さつまいも。

音楽F I。照明、舞台の輝度が増していく。

果穂、振り向く。

菜月がいる。ゆっくりと歩いてくる。

果穂、立ち上がる。

果穂

私が、私が好きなのは……、

菜月、果穂に抱きつく。

果穂、菜月を抱きしめる。

幕。

※菜月の兄は3歳上。中等度知的障害。昼間は支援施設に通所している。

※アンケートやラジオの原稿は実際に言葉が書かれたものを見ながら話して良い。

※ラップのビートはこちらで制作したのもありますので、必要であればご連絡ください。

2024.1